

第47回 2015（平成27）年
社会保険労務士試験

T A C 社会保険労務士講座

本試験分析

この資料は、第47回本試験実施後、受験者の皆様から寄せられた復元解答を元に、択一式及び選択式試験の平均点、得点分布等を算出し、分析結果を記載したものです。

本試験問題の「解答・解説」「科目別のコメント」「択一式問題の難易度一覧表」等につきましては本試験終了後に実施した解答解説会時配布資料又はT A C 社会保険労務士講座の情報誌『合格への招待』2015年臨時増刊号に掲載しております。

なお、この資料の分析結果は、あくまでも復元解答を元に作成した現時点でのT A C の見解であり、第47回本試験の結果を保証するものではありません。

途中の分析過程を省き、総合ラインのみ確認したい方は、P.7へ

※2015（平成27）年「本試験解答分析サービス」を利用された皆様へ
画面上に表示されている点数・利用者数等と、当資料で用いている点数・利用者数等は異なっています。これは、「A, A, A, A…」 「1, 1, 1, 1…」といった本試験において実際に解答されているものとは異なると予想されるものや免除科目のある方等をデータ上から除き再集計しているためです。あらかじめご了承ください。

第47回社会保険労務士試験 分析資料

択一式試験

●T A C本試験解答分析サービスより

年	基安	災徴	雇徴	常識	健保	厚年	国年	計	合格点	合格率
2015 (H27)	6.4	6.1	4.8	5.4	5.2	6.5	6.1	40.5	?	?
2014 (H26)	6.6	6.5	6.2	4.9	7.0	6.9	6.2	44.3	45	9.3
2013 (H25)	7.1	6.6	6.4	6.3	5.9	6.3	5.8	44.4	46	5.4
2012 (H24)	6.6	7.1	5.5	5.6	7.8	6.9	6.1	45.5	46	7.0
2011 (H23)	6.9	7.4	6.4	5.5	7.2	5.9	5.6	44.8	46	7.2
2010 (H22)	7.6	7.0	7.6	5.3	6.6	6.1	6.6	46.7	48	8.6
2009 (H21)	6.8	6.1	6.2	5.8	6.3	6.6	7.1	44.9	44	7.6
2008 (H20)	7.0	6.6	7.1	7.3	5.3	5.8	7.3	46.4	48	7.5
2007 (H19)	5.4	6.4	7.2	6.7	6.4	6.7	6.1	44.9	44	10.6
2006 (H18)	4.7	7.1	6.9	5.4	5.5	4.4	6.7	40.8	41	8.5

※白抜き数字は、3点可とされた科目

※2006年 健保問8-BD、厚年問3-BDは本試験実施後、複数正答として採点・集計→本試験結果発表後の正答（健保問8-B、厚年問3-D）を反映し再集計

※2006年 厚年問8は本試験実施後、全員正解として採点・集計→本試験結果発表後の正答（厚年問8-B）を反映し再集計

※2009年 国年問8は正答なし。全員加算。

※2010年 社一問7、健保問2、国年問10は正答なし。全員加算。厚年問10-AB、国年問7-CEは複数正答

※2011年 災徴問8-CEは複数正答

■□■今年度の択一式試験の特徴及び従来との比較■□■

◇択一式平均点は40.5点と過去10年間で見ると、2006 (H18) に次ぐ低い水準であった。

◇基本問題の占める割合（60%→50%）は低下し、応用問題の占める割合（34%→36%）は若干ではあるが上昇し、難問の出題比率は昨年よりも上昇している（6%→14%）。ここ数年では難易度の高い内容となっており、平均点も過去10年間で2番目に低い数字となっている。

◇昨年同様、組み合わせ問題に加えて、個数問題の出題が見られた。

◇最も平均点の高い科目は、[厚年] の6.5点、最も低いものは[雇徴] の4.8点であった。

●点数の分布割合等

(単位：％)

割合	基安	災徴	雇徴	常識	健保	厚年	国年
10点	1.4	1.7	0.1	0.1	0.4	5.5	1.2
9点	6.6	7.4	0.2	1.2	2.4	13.7	7.5
8点	16.2	14.6	1.7	7.1	8.1	18.1	14.2
7点	26.3	20.9	9.8	17.4	14.4	17.4	21.0
6点	21.5	20.3	23.4	25.1	19.6	15.9	20.5
5点	15.6	15.7	26.7	22.9	19.7	11.6	16.3
4点	7.7	10.6	19.2	15.6	16.7	7.5	8.9
3点	2.9	5.4	11.6	7.2	11.0	5.6	6.3
2点	1.3	2.4	5.4	2.8	5.0	2.7	2.6
1点	0.3	0.8	1.6	0.7	2.4	1.8	1.0
0点	0.2	0.1	0.4	0.1	0.2	0.2	0.4

3点以下割合	4.7	8.7	18.9	10.8	18.6	10.3	10.3
---------------	-----	-----	------	------	------	------	------

選択式試験

●T A C本試験解答分析サービスより

年	基安	労災	雇用	労一	社一	健保	厚年	国年	計	合格点	合格率
2015 (H27)	3.9	2.6	3.8	1.9	3.2	2.8	3.1	3.2	24.5	?	?
2014 (H26)	4.1	4.2	4.3	3.0	4.0	3.6	4.1	4.8	32.2	26	9.3
2013 (H25)	3.9	1.9	3.6	3.3	1.9	2.1	3.8	4.4	24.9	21	5.4
2012 (H24)	4.0	4.8	3.8	4.1	2.7	3.6	2.9	4.3	30.2	26	7.0
2011 (H23)	3.4	2.4	4.3	2.8	2.6	4.2	3.7	3.5	26.9	23	7.2
2010 (H22)	3.7	4.0	4.5	3.6	3.0	3.5	2.8	2.3	27.3	23	8.6
2009 (H21)	2.7	3.4	4.5	2.9	4.0	4.7	4.1	4.4	30.7	25	7.6
2008 (H20)	3.6	3.6	4.3	3.3	4.3	2.2	3.2	3.1	27.7	25	7.5
2007 (H19)	4.3	4.0	4.7	3.2	3.6	4.7	4.7	3.8	32.9	28	10.6
2006 (H18)	3.7	2.5	4.0	4.3	2.5	4.1	3.6	4.2	28.9	22	8.5

※白抜き数字は2点（2004年及び2008年の健保、2010年の国年、2013の社一は1点）が認められた科目

※2006年社一…当初「正答なし」で採点・集計→本試験結果発表後の正答を反映し再集計

■□■今年度の選択式試験の特徴及び従来との比較■□■

◇選択式の平均点は24.5点となり、過去10年間でみると2013 (H25) を下回り、最低の基準となった。

◇平均点が4点以上の科目がないのは過去10年で初めてである。

◇最も点数が伸びていなかった科目は「労一」で平均点は1.9点となっている。

●点数の分布割合等

(単位：%)

割合	基安	労災	雇用	労一	社一	健保	厚年	国年
5点	29.3	3.6	30.1	0.5	22.6	3.4	11.5	17.7
4点	38.0	16.4	38.2	4.2	21.7	24.3	27.3	28.1
3点	24.3	33.1	20.6	20.8	25.9	35.8	32.8	26.1
2点	6.9	31.3	7.4	43.3	17.9	21.1	19.3	18.3
1点	1.4	13.3	2.8	25.3	9.9	12.3	7.2	8.5
0点	0.2	2.3	0.8	6.0	2.0	3.2	2.0	1.4

2点以下割合	8.5	46.9	11.0	74.5	29.8	36.5	28.4	28.1
--------	-----	------	------	------	------	------	------	------

【総合得点の検証】

●択一式の総合得点

択一式の平均総合得点（40.5点）は、41点が合格基準点であった2006（H18）と同水準であった。

単純に考えれば、2006（H18）の41点と同水準となる可能性もある。しかし、雇用保険法の間5及び間6の出題内容に疑義があり、複数正答や解無しとなる可能性も残されており、仮に複数正答、解無しとなった場合、合格基準点が引き上げられる可能性がある。また、平均点が同水準であった2006（H18）の合格率は、8.5%であったが、直近の2年間、合格率は2013（H25）の5.4%、2014（H26）の9.3%と乱高下しており、合格率をどの程度に設定するかによっても合格基準点は変動するものと思われる。また、本年は選択式の難易度も高く、平均点が伸びていないことから、選択式の合格基準点の影響を受けて、択一式の合格基準点が変動する可能性もある。仮に合格率を、7～8%台の合格率とするのであれば、2006（H18）の結果を加味すると、42～45点の間で推移するものと考えられる。

●選択式の総合得点

次に選択式の総合得点について触れることとする。

過去のデータをみると「28点」を基本とし、補正を行う場合にはそれを下回る基準としている年が多い。

＜参考：選択式総得点が28点を下回った年＞

	解答分析の平均点	本試験結果
2006（H18）	28.9点	22点
2008（H20）	27.7点	25点
2009（H21）	30.7点	25点
2010（H22）	27.3点	23点
2011（H23）	26.9点	23点
2012（H24）	30.2点	26点
2013（H25）	24.9点	21点
2014（H26）	32.2点	26点

2009（H21）は「25点」が合格基準点とされ、[基安][労災][厚年]において2点補正が行われた年である。逆に、2005（H17）のように[基安]で2点補正が行われたにもかかわらず合格基準点は28点とされた年もあるが、全体的にみれば、補正科目が複数になる場合は合格基準点が28点より引き下げられる可能性が高くなる。

本年は、補正が4科目あり、合格基準点が21点とされた2013（H25）を下回り、過去10年で最低の平均点であり、3点以下科目が複数ある点も同様である。

【合格基準補正（いわゆる救済）の可能性について】

●択一式の合格基準補正の可能性

今年の択一式試験については、全体的に平均点が延びていないが、その一方で極端に平均点が低い科目はなく、いずれの科目についても、補正が行われる可能性は低いと思われる。

●選択式の合格基準補正の可能性

今年の選択式試験では、全科目のうちで平均点が3点未満の科目が[労災]2.6点、[労一]1.9点、[健保]2.8点と3科目もある。平均点が最も低いのは[労一]の1.9点であり、2点以下割合は74.5%と群を抜いて高い。合格基準点が21点となり、4科目（労災、雇用、社一、健保）で補正が行われた2013(H25)に近い。

過去の事例を見てみると、2011(H23)においては平均点が低く、かつ、2点以下割合が多い[労一]の補正を行わずに、平均点が高く、かつ、2点以下割合が少ない[基安][厚年][国年]が補正されたこともあることから、平均点や2点以下割合のみを基準として補正が行われるとも限らないが、本年は補正が行われる可能性が極めて高い年であると思われる。

<参考：過去の本試験で2点以下割合の高かったもの…解答分析サービス資料より>

- ・2006(H18)…労災**49%**、社一**54%** → 労災・社一2点補正(他に基安・雇用・厚年2点)
- ・2008(H20)…健保**62%** → 健保1点補正(他に国年・厚年2点)
- ・2009(H21)…基安**43%** → 基安2点補正(他に労災・厚年2点)
- ・2010(H22)…国年**58%**、厚年**41%** → 国年1点、厚年2点補正(他に社一・健保2点)
- ・2011(H23)…労災**51%**、労一**28%**、社一**48%** → 労災・社一2点補正(他に基安・厚年・国年2点)
- ・2012(H24)…社一**41%** → 厚年2点補正
- ・2013(H25)…労災**76%**、社一**72%**、健保**64%** → 社一1点、労災・健保2点補正(他に雇用2点)

総合的な合格基準分析

【参考】過去の本試験結果と解答分析サービスの結果

	回数	本試験				解答分析サービス			
		受験者	合格者 (a)	合格率		提出者 (b)	合格者 (c)	※1 (c/b)	※2 (c/a)
2006 (H18)	38回	46,016	3,925	8.5%		1,940	794	40.9%	20.2%
2007 (H19)	39回	45,221	4,801	10.6%		2,605	1,278	49.1%	26.6%
2008 (H20)	40回	47,568	3,574	7.5%		2,587	862	33.3%	24.1%
2009 (H21)	41回	52,983	4,019	7.6%		2,597	1,043	40.2%	26.0%
2010 (H22)	42回	55,445	4,790	8.6%		3,000	1,315	43.8%	27.5%
2011 (H23)	43回	53,392	3,855	7.2%		2,671	925	34.6%	24.0%
2012 (H24)	44回	51,960	3,650	7.0%		2,521	862	34.2%	23.6%
2013 (H25)	45回	49,292	2,666	5.4%		1,885	558	29.6%	20.9%
2014 (H26)	46回	44,546	4,156	9.3%		2,199	1,014	46.1%	24.3%
2015 (H27)	47回	?	?	?		1,676	?	?	?

※1 解答分析サービス提出者の合格率 (c/b)

※2 本試験合格者のうち、解答分析サービス提出者が占める割合 (c/a)

解答分析サービス利用者の合否状況を表に当てはめると上記の通りとなる。解答分析サービスは、本試験全受験者のごく一部が利用するにすぎないが、過去の結果を見ると毎年、ある特定の層の方がこのTACの解答分析サービスを利用していることが分かる。例えば、ボーダーライン上、又はその前後の得点の方の利用者が圧倒的に多い。



表の※1…2010 (H22) までは解答分析サービス登録者のうちおよそ40%前後が合格していたが、合格率を7%台に抑えた2011 (H23)、2012 (H24) は30%台半ばで推移していた。合格率が5.4%とされた一昨年は、29.6%、9.3%であった昨年は、46.1%となっている。

表の※2…本試験合格者のうち解答分析サービス利用者が占める割合を指す。例年20～28%前後の推移が続いており、例年合格者のうち、「約4分の1」前後はTACの解答分析サービス利用者が占めていることがわかる。

1. ここ数年の合格率の乱高下から考えると、あらかじめ「合格率」や「合格者数」を設定し、これに合わせて総合的に選択式、択一式の合格基準点を設定していると言うよりも、それぞれの全体のできに応じて合格基準を設定し、その基準をクリアした者を合格としていると推定される。
2. 1. の内容から考えると、過去のデータリサーチの平均点の実績と合格基準点との関連性を見ていくことで合格基準を予想していくことが、おそらくもっとも現実的と考える。
3. まず、択一式であるが、本年の平均点に最も近いのは、2006(H18)の40.8点である。同年の合格基準点は、41点となっているが、5ページでも述べたとおり、本年は雇保の間5及び間6の内容に疑義があり、両間の取扱いによっては、合格基準点が引き上げられる可能性がある。以上の点を加味すると、42～43点が合格基準点となる可能性が高い。択一式の補正の可能性であるが、全体的に得点が伸びていないのが今年の特徴ではあるが、極端に平均点が低い科目もないことを考えると、補正が行われる可能性は低いと考える。
4. 次に選択式であるが、本年の平均点にもっとも近いのは、合格率が5.4%と最も低かった2013(H25)の24.9点である。ただし、同年は平均点が2点未満となった科目が労災、社一の2科目あり、両科目ともに、補正（労災2点、社一1点）が行われている。本年においては、労災、労一、健保の3科目が平均点3点未満であり、補正が行われる可能性がある。ただし、平均点が2点未満の科目は労一のみであり、2013(H25)よりも若干合格基準点が高くなる可能性もある。以上の点を加味すれば、22～23点が合格基準点となる可能性が高い。労一については、平均点が2点を割り込んでいることから、1点補正の可能性も考えられるが、1点補正をかけた場合、7割近い受験生が補正の対象となることから、可能性は高くないと考えられる。
5. 本年度の本試験の特徴としては、択一式も選択式も全体の難易度が高く、択一式で7点、選択式で4点以上の平均点となる科目が1科目もないことがあげられる。合格基準の設定や選択式の補正については、P.6から触れた通り、補正は単に「平均点が低い」「2点以下の人数が多い」といった科目間のバランスを調整するだけではなく、合格者数や合格率の調整として用いられていることも考えられる。また、択一式の合格基準も実施者側が、合格率をある程度抑えるのであれば高めになり、昨年並みに高くするのであれば、逆に低めになることも考えられるが、現状では前記3. 4. で述べた合格ラインが有力であると考えられる。